

西宮えびす

平成二十六年 夏号



おこしや祭 夏えびす 西宮まつり

諸国探訪 上田西宮えびす神社

文化研究所だより(五)

西宮神社、えびす信仰の広がり

静岡県にある西宮神社



えびす
NISHINOMIYA EBISU
平成二十六年 夏号

西宮えびす 平成二十六年夏号(通巻第四十一号) 平成二十六年六月一日 発行
発行/西宮神社 〒662-0974 兵庫県西宮市社家町1-17 電話0798-630321 FAX0798-630525

編集/文化課 印刷/小西印刷所

I N F O R M A T I O N インフォメーション

西宮神社会館 万燈籠特別ディナー 「灯の夕べ」

夏祭りの日、夕刻より行われる「えびす万燈籠」はえべっさんの夏の風物詩です。夏の夜のひととき、えびすの森は雅楽のしらべが流れ、ろうそくの炎が揺れる幻想的な世界に変わります。

西宮神社会館の特別ディナー「灯の夕べ」。夏の一夜をさらに素敵にして頂ける毎年好評の催しです。リーガロイヤルホテルのお料理とともに古式ゆかしい女人舞楽の舞と、日本古来の楽器で現代音楽を演奏する雅楽奏者の演奏など、幻想的なディナーをお楽しみください。



万燈籠特別メニュー(※写真はイメージです)



雅楽「雅古奏会」



えびす万燈籠



女人舞楽「原笙会」

- 日時 平成二十六年七月二十日(日) 午後六時半(受付午後六時)
 - 会費 六千円(おみやげつき)
 - 締切り 七月十日(木) 限定百名
 - 申込み 西宮神社会館 (TEL) 〇七九八-二三三三三
- ※定員になり次第締め切らせて頂きます。
※雨天によりえびす万燈籠が中止になった場合でも「灯りの夕べ」は開催します。

子供相撲大会 参加者募集

えびす様の荒魂をお祀りする沖恵美酒(荒戎)神社。その力強い御魂を授かろうと、例祭日である七月十日に近い日曜日に奉納子供相撲大会を開催しております。

応募資格は幼稚園から小学生迄でグループに分け、競います。是非かわいいお子様の勇姿をご覧ください。

- 日時 平成二十六年七月六日(日) 午前九時開始(幼稚園の部) 午後一時開始(小学生の部)

- 応募資格 一般の部 幼稚園児(男子・女子) 小学校(小学生男子・女子) 経験者の部 小学校(小学生男子)



- 申込方法 申込書に必要事項を記入の上、社務所受付までお申込みください。
- 申込締切り 六月二十三日(月)

編集室から

五月六日、諸国講社太々神楽祭が行われ全国各地からえびす神社ご関係の方々も参加されました。その直会で、前述した「津波伝承 女川復幸男」に支援参加した開門神事講話の講長 平尾さんに講演して頂きました。その中で、「津波による甚大な被害を受けた被災地では高い堤防を新たに築くという案が出てくるが、女川町民は今まで海と共に生活してきたこの町に高い堤防を築き海と切り離れた生活をする事はできない」と考えているという話を聞きました。昔から日本人は自然と共に生活をしてきました。時に人々に大きな被害を及ぼす自然を恐れつつ、拒絶するのではなく、畏敬の気持ちで崇める事により、恩恵を賜る。女川町は、甚大な被害をもたらした海を拒絶する事なく、共に生活していくことを決めたと言っています。被災地の速やかなる復興をお祈り申し上げます。

twitterで西宮神社の最新情報を
http://twitter.com/nishi_ebisu
twitter

西宮神社 公式サイト 検索
<http://nishinomiya-ebisu.com>



西宮神社 公式サイト QRコード

上田西宮えびす神社



【鎮座地】長野県上田市中心北二一五一五 上田大神宮御内
上田西宮えびす神社宮司 今井 正昭



上田西宮えびす神社

上田市は長野県の東部に位置し、長野、松本に次ぐ市であり、千曲川が中心を流れる自然豊かな市であります。かつては蚕都として養蚕業が盛んでありましたが、現在は自動車部品・電気機器の製造、またりんごや花・白菜などの野菜も盛んに生産されており、戦国時代に真田氏が治めた上田城下町を中心に観光にも力を入れております。

当社社伝によりますと大正中期に総本社兵庫県「西宮神社」より御分霊を勧請、お祀りし現在の西田大神宮境内西側に上田大神宮の摂社として建立しました。

当社の祭典は二十日えびすで、商売繁栄を神様に祈願する正月二十日の初えびす祭と、一年の商売の無事繁栄を感謝する十一月二十日のえびす講大祭を斎行しております。

大正から昭和中期にかけては上田市周辺の市町村のお札頒布指定神社として二万休ほど頒布しておりま



(広報担当 水科 民英)

したが時代の変遷に伴い頒布体数も減体となつていきます。お祭りには昭和年間に組織されたえびす繁栄講中三十五講、講員三百人が中心に年間二回の祭祀を斎行しており、境内は縁起物・達磨などが並び、盛況であります。かつてはえびす講大祭と伴に上田市街の各商店でえびす講の大売出しが盛大に行われ、商店街は大勢の買い物客で賑わいを見せておりました。

今後も御神徳の発揚を高め、地域の皆様が商売繁盛、平穩、息災、福徳の賜物を授受されますように広めて参りたいと考えております。

西宮神社を始め、各社のえびす信仰が益々ご発展されますことをご祈念申し上げます。

文化研究所だより(五)

謎の神事「夷御世渡始」

西宮神社においては、毎年多くの神事が執り行われています。古来からの神事とともに、諸願成就を祈る人々により創始された神事もありましょう。その一方で、現在では行われていないような神事も「社用日記」には記録されています。今回はそのような神事のひとつ、毎年三月十八日に行われていた「夷御世渡始」神事についてご紹介したいと思います。

この神事は、夷社にて執り行われるもので、「御世渡始」「御所帯始」などとも記されますが、例えば天明八年(一七八八)の日記に「ミシヤウタイ始」とあることから、「みしようたいはじめ」と読んだようです。日記上、元禄十一年(一六九八)が初見であり、以降ほぼ毎年記録されています。

さて、「御世渡始」神事、いかなる由緒があるのか、実は江戸時代においても「古来より有来候御神事二候得共、由緒ハ不相知候」(宝暦五年(一七五五))と記されるように、古来から行われているというだけで、一体何の神事であるのかすらわからなくなっていたのです。字句からは夷社の創建にかかわる重要な神事とも考えられますが、おそらく戦国期の争乱で様々な記録類が失われ、その由緒も忘れられてしまったのではないかと思われます。但し、現在六月十四日に行われるおこしや祭りとは別です。当時も毎年

や祭りにつながるのでしょうか。

夷社にて神事が執行されるのみであったところ、正徳二年(一七二二)、突然盛大なものとなります。日記には「神

主冠・紅衣、社家布衣・烏帽子、祝子黄衣・烏帽子、其外神子五人、願人平次衛門・小左衛門上下ア着シ大小、御旅所支配人戸田見竹父子上下大小三而御神輿供奉、時行役人・庄屋・年寄・筋目ノ氏子御神輿ノ兩脇守護、尼崎よりノ御政道人御神輿ノ兩方、当地御屋敷立石伊兵衛殿・同心鼻高ノ前兩脇政道」(正徳二年三月十九日条)とあり、御神輿を奉じ、御旅所への神幸を行うようになったのです。神職・社役人はもとより、氏子らも供奉しています。

さらに、西宮町奉行はじめ尼崎藩役人が行列の先頭と御神輿脇に付き添い、「政道」(取締り・制止役)をつとめています。見物人が大勢いたのかもしれない。そして翌正徳三年には、神幸行列が御旅所を経由しつつ西宮町中をほぼ一周

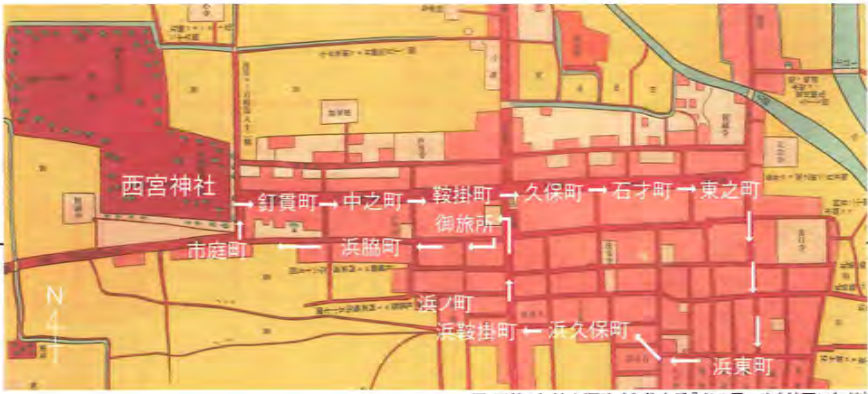


図 正徳2年神幸順路 (吉井良秀「老の思い出」付図に加筆)

するようになり、さらに盛大に執行されます(図参照)。

しかし、この神幸も正徳三年を以てわずか二回で終わります。西宮神社の支配権獲得を目論む寺社伝奏・白川家の学頭白井左忠と神主との間で、神事中の散銭配分をはじめ、さきの史料中に登場する戸田見竹の身分などを争点とする争論が生じ、一時は神主が排斥され、最終的に幕府寺社奉行の審理を受ける事態にまで発展したためです。新井白石が自著「折たく柴の記」にも記したほどの一大争論は、「御世渡始」神事が引き金となつてしまつたわけですが、以降神幸が再興されることはなく、従来通り夷社にて神事が執行されるのみとなりました(詳細については、幡鎌一弘「正徳の争論の経緯とその背景」(「西宮神社御社用日記」第二巻に収録)参照)。

その後は、管見の限り明治二年(一八六九)に酒造家中を願主とする太々神楽とあわせて執行されたのを最後に日記上みられなくなり、以降は太々神楽のみとなった模様です。この神楽に統合されたのか、あるいは改暦の影響の有無など、最後まで不明点が多いのですが、争論に発展してはいないれば、あるいは盛大な祭礼として今に伝えられた可能性もあった「御世渡始」神事は、日記上のみにその痕跡を残してひっそりと消えてしまったのでした。

(西宮神社文化研究所主任研究員 松本和明)

- 六月
 - 十四日 御興屋祭典(おこしやまつり)
 - 三十日 夏越大祓の輪くくり
- 七月
 - 六日 九時 あらえびす神社奉納子供相撲大会
 - 七日 夕刻から 七夕 天の川
 - 九日 十六時 あらえびす夜まつり―宵宮―
 - 十日 十二時 境内末社 沖恵美酒神社祭
 - 十六時 あらえびす夜まつり
 - 十四日 十時 境外末社 住吉神社例祭
 - 十七日 十時 境内末社 市杵島神社祭
 - 二十日 十時 夏祭 湯立神楽
 - 十八時 えびす万燈籠
 - 二十一日 二十三日 夏休み子供神社体験学習会
 - 三十日 十時 境外末社 住吉神社夏祭
 - 十六時 住吉神社境内縁日屋台
- 八月
 - 二十四日 十時 境内末社 火産靈神社祭
- 九月
 - 八日 十八時 観月祭
 - 二十日 十時 境内末社 庭津火神社祭
 - 十七時 西宮まつり 宵宮祭
 - 十八時 奉納演芸会
 - 二十二日 十時 例祭
 - 十五日 十五時 稚児行列
 - 十七時半 子ども樽みこし
 - 二十三日 十時 渡御祭(発興)
- 十月
 - 四日 九時四十分 宮水まつり
 - (市内久保町の宮水発祥の地記念碑前)
 - 土曜三分鐘 醸造祈願祭
 - 十二時 「西宮酒くらルネサンスと食フエア」
- 十一月
 - 五日 十時 「西宮酒くらルネサンスと食フエア」二百目
 - 十五日 十時三十分 御神影頒布始祭
 - 十七日 十時 神嘗奉祝祭 神宮選擇

※本社の上旬祭、中旬祭、下旬祭にはどなたでも御参列いただけます。時刻までに拝殿までお越しください。毎朝八時半～十時から九時から大祓詞を奏し、参拝致します。どうぞご参加ください。

※各行事の時間は変更になる場合があります。

「西宮まつり」

- 九月二十一日(日) 宵宮祭 午後五時 奉納演芸会 午後六時
- 九月二十二日(月) 例祭 午前十時 稚児行列 午後三時 子ども樽みこし 午後五時半
- 九月二十三日(火・祝) 渡御発興祭 午前十時 陸渡御 香榎園地区 正午頃 御旅所祭 香榎園浜 午後二時二十分 海上渡御(ヨットハーバー発) 午後四時頃 (ヨットハーバー帰着) 午後五時頃 還御祭 午後五時頃



子ども等の作った樽みこし

和伊田岬へ向かい三石神社、和田神社へ産宮まいりをし、柳原蛭子神社へも参拝します。



陸渡御



西宮の海を進む船団

西宮まつりは、阪神・淡路大震災から復興の兆しの見え始めた平成十二年、市民の中から「西宮の街が一つになるような祭りを復興の証として行いたい」と始まりました。

二十一日、神前にて宵宮祭を執り行った後、本殿西広場で「奉納演芸会」を開催します。二十二日は神社にとって一年で一番重要なお祭り、例祭を斎行。午後からはかわいい子ども達が門前町を練り歩く稚児行列や子ども樽みこしを行います。二十三日はえびす様を神輿にお載せし、時代装束を着け、氏子区域を渡御し、御旅所祭を斎行。午後は新西宮ヨットハーバーから御座船を始めとして、十数艘の船団が西宮の海を周航する海上渡御を行います。また二艘はえびす様に縁深

関西で一番早い夏祭り 「おこしや祭」

本殿よりびわで飾り付けられた神輿にえびす様をお遷しし、おこしや跡地まで神幸します。昔、西宮ではこの日からゆかたを着始める慣わしで、別名「ゆかたまつり」とも。お祭りは、えびす様の御神像を神戸・和田岬沖で拾い上げた鳴尾の漁師の子孫と言われる鳴尾惣太夫さんや地元のお世話人さん達の参列のもと行われ、お祭りの後には季節の果物びわが配られます。境内では昔懐かしい縁日屋台も登場。子どもたちも喜ぶこと間違いなし。また神社境内やおこしや跡地をまわるスタンプリーも開催されます。

六月十四日(土)

- 本殿発興祭 午後三時
- おこしや祭 午後三時半
- 還御発興祭 午後九時半
- 本殿還御祭 午後九時半
- 昔なつかし縁日屋台 午後三時～九時半



大道芸を楽しむ子どもたち



還御発興祭

夏の十日えびす 「夏えびす」開催

七月十日はえびす様の行動的で力強い御魂をお祀りする沖恵美酒(別名荒戎)神社の例祭日。午前十時から祭典を斎行。夕方からは境内松林で西宮の飲食店が軒を連ねる「荒戎麦酒まつり」が行われます。また七夕の日には拝殿前方、神池にLEDライトの天の川が登場。二十日は午前には暑気払いの夏祭り、夜には三三〇基の石燈籠と五千個のろうそくが揺らめくえびす万燈籠が行われます。夏の十日えびす「夏えびす」にどうぞお越しください。

七月六日(日)

- あらえびす神社奉納子供相撲大会 午前九時
- 幼稚園の部 午後一時
- 小学生の部 午後一時

七月七日(月)

- 七夕天の川 夕刻～午後九時

七月九・十日(水・木)

- あらえびす夜まつり―荒戎麦酒まつり― 午後四時～午後九時

七月十日(木)

- 沖恵美酒(おきえびす)神社祭 午前十二時

七月二十日(日)

- 夏祭湯立神楽 午前十時
- えびす万燈籠 午後六時



湯立神楽

あらえびす夜まつり

七夕天の川登場

夏えびす期間は境内にて 風鈴市が開催されます。

住吉神社

西宮港湾の守り神様 境外末社住吉神社は、江戸中期に当舎屋金兵衛が西宮の港湾整備事業着工にあたり、航海安全を願って住吉大神を勧請し創建しました。七月三十日には夏祭りが行われ子ども等が舟だんじりを曳き神社周辺を練り歩きます。また夕刻からは境内で縁日が開かれ、子どもたちで賑わいます。



舟だんじり

七月三十一日(木)

- 夏祭り 午前十時
- 舟だんじり巡行 午前十二時頃
- 縁日屋台 午後四時～七時

西宮神社、えびす信仰の広がり

— 静岡県にある西宮神社 — (一)

全国各地に三千社以上鎮座するえびす神社。

静岡県の中・西部には特に「西宮」神社が多く鎮座します。この一部をご紹介します。

1 静岡市清水区島崎町
西宮恵比須神社



清水駅近くに鎮座するえびす様。

2 静岡市清水区本町
西宮神社



清水港の西、川沿いのあまり広くはない境内だが、十一月のえびす講は大変賑わう。

3 静岡市葵区横田町
西宮神社



静岡市中心部に鎮座。

4 焼津市栄町
西宮神社



十一月二十日は「あやのおいべっさん」として大変賑わう。当社より献幣使が outward する。写真は前日十九日の宵宮の賑い。

5 焼津市岡当目
西宮神社



焼津市は西に大井川、東に瀬戸川が流れている。この神社は、瀬戸川の流に左右され、近年は東海道新幹線の建設により境内地が移動した。

6 焼津市小柳津
西宮神社




焼津市の西の端、東名高速道路に面した小柳津の集落に在る。

7 焼津市大覚寺
西宮神社




焼津駅から藤枝方面に行く途中、古い村落の中に昔のままに鎮座している。弘安三年(1280)攝津国西宮より勧請せりと伝えられる。

8 藤枝市岡部町三輪
西宮神社




同所鎮座の神神社の代々の社家・神家が当該西宮神社を守っている。

10 藤枝市岡部町新舟
新舟西宮恵比須神社



昭和四十七年十一月十八日、当社より分霊。

11 藤枝市滝沢
滝沢西宮神社
(滝沢八坂神社境内社)



平成十七年九月に当社より分霊。

13 島田市川根町身成
西ノ宮神社



周辺は高級茶「川根茶」の茶畑。大井川の水運で下流より海産物などが入り、商売繁盛のえびす様が祭られたようだ。享保五年(1720)再建の記録が残る。

9 藤枝市岡部町内谷
岡部西宮神社



旧東海道、岡部宿に在る。

12 藤枝市五十海
西宮山王
(原木神社合祀)

原木神社は安閑天皇二年(536)には存していた。西宮山王を合祀していた時代もあったが、明治十八年以降、原木神社と称す。

14 島田市船木(岡田)
西宮神社
(池田家邸内社)



現在は島田市であるが、元は遠州榛原郡岡田村で代々当社の配祀係をしておられた「池田家」の邸内社。「池田織部」が残した御神影頒布の貴重な文書がある。詳しくは信仰資料展示室をご覧ください。





西宮神社、えびす信仰の広がり

静岡県にある西宮神社 (二)

静岡県の西部に鎮座する西宮神社の一部をご紹介します。



15 西宮神社

(神明宮境内社)

向って左の社殿が西宮神社、明治十四年恵美須之命を祀る。



16 神明社・西之宮社

(津島神社境内社)

神明社、西之宮社など十二社が合祀されている。



17 西宮神社

(住吉神社境内社)



20 西宮神社

御祭神は蛭見命。古来、大寄村の氏神で、村名は建武年間より存在する。宝永五年再建の記録もある。



19 西宮廣田神社



18 蛭見神社

牧之原市蛭ヶ谷



25 西宮神社

磐田市玉越

旧・磐田郡原村玉越。村落も見当たらない、田畑の中、高速道路の側に鎮座している。文暦元年(1234)、摂州西ノ宮より勧請すと申し伝えありと言う。



24 西ノ宮神社

周智郡森町橋

平成十六年に再分霊した社です。十月にえびす講を行っています。



23 西ノ宮神社

掛川市西山

遠州鉄道・天竜浜名湖線原谷駅下車、西の山すそに在る。小高兼吉宮司の兼務社。



26 西宮神社

磐田市二之宮

本殿左側に六社が祭られている。夫々木造の小社で、社名を刻んだ石が建っている。巖島神社、西宮神社、若宮神社、浅間神社、八面神社、住吉神社である。



27 西宮神社

浜松市北区細江町気賀伊目

(白山神社境内社)



30 白山神社西宮神社

湖西市入出

浜名湖の西岸にある。拝殿は昭和五年に建てられた豪壮な建物であった。白山神社は南北朝時代に近くの宇津山の城主が加賀より正太寺内に勧請したものが、戦国期にこの西宮神社に合祀されたと云う。



29 西宮神社

浜松市北区三ヶ日町下尾奈

(神明社境内社)



28 西宮神社

浜松市北区三ヶ日町只木

(神明宮境内社)



22 西宮神社・白山神社

掛川市遊家

戸塚友美宮司兼務。旧・小笠郡雨桜村遊家。文治年中(平安末)に勧請され天正七年(1579)現在地に遷し祀るとある。近くの雨桜神社も吉野朝を想わせる古風な境内である。



21 沢水加西宮神社

ささばか

くじにより、九組の組織が毎年交替で当社に参拝される。参拝時、必ず御神影札を受けられる。

「津波伝承 女川復幸男」に 福男達が支援参加

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県女川町では、津波の経験の後世へ伝えようと、「津波伝承 女川復幸男」という行事を三月十六日の女川町復幸祭の前日に行っています。津波には先ず、



「津波伝承 女川復幸男」

高台に向かって逃げるといふ津波避難の基本をみんなの心に根付かせようと行っており、町に津波が到達した十五時三十二分に高台にある女川中学校の生徒によって設置された「いのちの石碑」までの一番乗りを競います。当社の福男選びを参考にし、たとの事で、今年はい



福男と平尾講長

西宮神社開門神事講社講長の平尾さんと十日えびす福男の畑中さん、岸本さんが参加しました。

開門神事講社は、阪神・淡路大震災に被災し復興した西宮から、東北へ向けてエールを送りたいと、これまでも義援金を送るなどの支援活動を行ってきました。平尾さんにより「逃げる！」の合図がなされ、二年連続復幸男に選ばれた鈴木木さんには福男の二人より西宮神社えびす様の御神像が手渡されました。

第三回 春休み子供会 えびすの森観察会開催

一昨年より行っております春休み子供会えびすの森観察会。今回は三月二十一日、十二名を得て開催いたしました。午前九時半から六英堂で開講式、宮司講話に続いて神戸大学農学部准教授石井先生にえびすの森の歴史や、森に住む生き物たちの生態系などをスライドを使って講義して頂いた後、いよいよ森に入っの学習。先生の研究室の学生達の指導のもと、森の観察



六英堂で森の勉強



みんなで葉っぱカルタ大会



神戸大学の学生達の指導のもと、森の観察をしました

察を行いました。観察の後は、先生達が準備したプランコや木登り遊びの遊具でお昼ご飯の時刻も忘れて大はしゃぎ。お昼からは、午前中に森の中で集めてきた葉っぱなどを使った「葉っぱカルタ大会」。これもまた、子供たちの心をつかみ白熱した競い合いが繰り広げられていました。

伊藤弘之氏 絵画奉納

伊藤氏は西宮在住の画家で、作品のテーマを「馬」とし、描き続けてこられました。今年も午年、またご本人が喜寿を迎えられるという事から、誕生日の三月二十七日に「降砂紋響」「辰馬邸の桜」の二点の絵画をご奉納されました。神社会館二階ロビーと社務所応接室に掲げております。



「降砂紋響」

「辰馬邸の桜」

境内末社 宇賀魂神社、大國主西神社 遷座祭斎行(四月四日)

宇賀魂神社は稲や食物を司る神をお祀りしており、当社旧記によると室町時代以前のご創建であるとされています。

大國主西神社は縁結びの神様、大國主神をお祀りしており、延喜式にも記載される歴史あるお社です。新たになったお社にどうぞお参りください。



宇賀魂神社



大國主西神社拝殿

本えびす講社 講員の方へ

平成二十六年四月一日より、講員の方の正式参拝は拝殿にて行っております。それに伴い受付は授与所・講社本部にて承ります。ご承知おきください。尚、規約変更等の詳細はホームページにてご覧ください。



御社用日記 輪読会

当社には、元禄時代から代々吉井神主によって記された御社用日記が残っています。それを翻刻し、平成二十三年九月に第一巻、二十五年十月に第二巻を刊行しました。

御社用日記輪読会では月一度、神職が順番に担当を決め、第一巻より原文を読み内容の検討をし、当時の神職の仕事ぶりや苦勞、またえびす信仰の広がりなどを偲びます。活字にはなっているものの、候文、漢文調の記載に苦勞しながら読み進めております。

